

第3回教育委員会（臨時）議事録

1. 開 会

令和2年4月30日（木） 13時00分

2. 場 所

丹波篠山市民センター 研修室5

3. 会議に出席した委員

教育長 前川 修哉

委 員 酒井 克典

委 員 中村 貴子

委 員 垣内 敬造

委 員 井上 友香

4. 会議に出席した職員

部 長 稲山 悟

次長兼教育研究所所長 酒井 宏

教育総務課長 中野 悟

学 事 課 長 森本 康幸

学校教育課長 尾松 直樹

社会教育課長 小林 康弘

こども未来課長 中筋 有香

教育研究所副所長 方山 直人

教育総務課主事 河野 元秀

5. 議事日程及び議案

別紙の通り

6. 開会宣言

13時00分

7. 会 期

（自）令和2年4月30日

（至）令和2年4月30日 1日間

8. 会議録署名委員名簿

井上 委員

9. 閉 会

14時20分

前川教育長	<p>日程第 1、会議録署名委員は 4 番井上委員とする。</p> <p>日程第 2、会期は令和 2 年 4 月 30 日、本日 1 日間とする。</p> <p>日程第 3、協議事項に移る。協議第 1 号の「新型コロナウイルス感染症による市立学校園の臨時休業期間の延長等について」教育総務課説明を求める。</p>
稲山部長	《議案書に基づき説明》
中村委員	5 月末までの延長は仕方ないと感じる。治療薬等が開発されていない状況にあるので、登校にあたり不安が多くある。情報機器を使った授業配信や心のケアに努めてほしいと思う。
酒井委員	<p>不確定な状況であり、国や県の方向性に従わざるを得ない。児童生徒や保護者、地域がどのような課題や問題を感じているのかを把握しなければ対応策を講じることができないと思う。</p> <p>学力保証について、休業日の短縮を夏季休業日に限定せず、冬季休業日や春季休業日の短縮や土曜日も授業日に設定するなど、子どもたちが学ぶことができる体制を整えてほしい。子どもたちの「学ぶ権利」をしっかりと保証してほしい。ただし、教職員の勤務労働条件等も考慮しながらの対応が大前提である。</p>
垣内委員	<p>5 月 31 日までの休業延長は仕方ない。他市で独自に対応を取っているところもあるので、丹波篠山市としては、国、県の方向性を鑑みて、他市と足並みを揃えているということを市民にしっかりと説明する必要があると思う。</p> <p>市町から県、国に向けて判断を早くすることの必要性を伝えていく必要性もあると思う。</p> <p>各家庭の生活状況によって、学力差が生まれることが懸念される。担任教諭などが家庭生活へ定期的な連絡を取るなど配慮をしてほしい。</p>
前川教育長	地域住民から聞く意見について、具体的に教えてほしい。
垣内委員	「小野市など独自に判断して対応しており、丹波篠山市も独自の判断で対応すればよいのではないか」などの意見を聞いた。
酒井委員	科学的根拠等の学校再開時の要件をしっかりと情報収集しておいて、根拠に基づいて学校再開ができるように準備をしてほしいと思う。
井上委員	<p>「発症者が出ていないのに休業を延長するのか」といった意見もでてくるかもしれない。阪神間に通勤している保護者がいることなど、休業延長の対応を行う要因等も説明しておくとも市民はより納得するのではないか。</p> <p>児童クラブについて、利用者数が減っているがゴールデンウィークが明けると、また利用者が増加する可能性が出てくる。利用者に再度、利用の制限と制限に至る理由を案内してほしい。</p> <p>公設以外の児童クラブは教師が子どもたちを預かることはあるのか。それとも教師は、定期的な訪問等の対応にとどまっているのか。</p>

<p>酒井委員 尾松課長</p>	<p>休業措置が終了したあとの指導について、授業ができなかった分を一方的に教えて、詰め込むような授業とならないように工夫してほしい。</p> <p>特別支援学校の児童生徒についてはどのような対応をとっているのか。</p> <p>基礎疾患を持っている児童生徒もいるので、保護者をはじめ、学校医、指導医等と連絡を取り、対応を図っている。学校再開に向けて現段階でできる情報収集を行っている。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>デイサービス等を利用し、福祉部局とも連携して対応していると聞いている。</p> <p>5月末までの休業延長については、賛同いただけると理解した。ただ、休業延長に至る経緯をしっかりと市民に説明を行うということでもよろしいでしょうか。</p>
<p>全委員 稲山部長</p>	<p>問題ない。</p> <p>15時から開催される市対策本部会議において皆さんの意見を伝えたいので、議案書2ページの1 市立学校園の臨時休業の再延長について の2段落目を「県の周知発表を受け、市内で感染者が出ていないが、子ども達の安全のため、さらに令和2年5月31日(日)まで再延長する。」に修正して報告を行うが良いか。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>3 市立学校園の夏季休業期間の短縮について において、授業時数の確保と学力保障から先ほど述べたように、夏季休業日だけに限らず「長期休業日等の変更を検討している」ことを伝えてほしい。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>日程第4、報告事項に移る。報告1「市立学校園の臨時休業期間における園児児童生徒への支援等について」学校教育課・教育研究所説明を求める。</p>
<p>酒井次長兼教育研究所長</p>	<p>《議案書に基づき説明》</p>
<p>酒井委員 酒井次長 酒井委員</p>	<p>臨時休業期間において、第一義的な責任は誰にあるのか。</p> <p>第一義的な責任は、保護者にある。</p> <p>学校に求めることが多くなっているが、昔ながらの地域共同体というような保護者、地域住民がみんなで子ども達を守っていくことも必要であると思う。</p> <p>一人親世帯でもし親が感染した場合は、子どもは誰が面倒を見るのか。その時になってから対応を検討はじめるのでは遅い。福祉部局など関連が考えられる人と今後の対応を協議していく必要があるのではないかと。</p>
<p>中村委員</p>	<p>通信機器を使って教材をダウンロードする際に親の助けが思うが、そのサポートが必要になるのではないかと感じた。また、一度に多くの児童生徒がアクセスした際の通信回線は問題なく対応できるのか疑問に思った。</p> <p>現時点では、市教委が配信する一方通行的なやり取りであるように思うので、早く双方向でやり取りができる仕組みを整えてほしい。ただ、短期間で環境整備いただき感謝している。</p>

酒井委員	インターネットでの環境整備をいただいたが、家庭環境によって受ける影響が大きく異なり教育格差が起きてしまう恐れがある。現時点での就学援助数を教えてほしい。
森本課長	現在、資料がないので回答しかねる。
酒井委員	情報機器を用意できない貧困家庭にどのような対応をしていくのかも併せて考えていかなければ、教育格差はますます広がってしまう。全ての家庭に対応することは難しいと思うので、ある程度の方向性を決めて対応にあたってほしい。
前川教育長	正確な数値は分かりかねるが、4月現在の就学援助数について、例年から大きく変動していないと認識している。また、就学援助を受けている児童生徒については、様々な家庭があるので全家庭ではないが、教員が定期的な連絡を取り状況確認を行っている。
垣内委員	情報機器を取り入れることに加えて、酒井委員の意見のように家庭環境に応じてアナログな対応も必要になってくると思う。一方的な情報発信ではなく、双方向の情報のやり取りができるように整備してほしい。 また、どの程度のアクセスがあったなど児童生徒のリアクションをしっかりと分析して、更なる改善にも努めてほしい。
酒井次長	オンライン授業については、教師もオンライン授業を行うスキルが必要であると感じている。教育研究所でも研修会などを行えるように準備を進めていきたい。 また、児童生徒のリアクションについては、アクセスログの解析ができるように整備しており、どこからのアクセスが多いのかなど、情報解析を行い今後の改善に役立てていく。 教育格差については、各家庭環境によって生じることは確かに想定される。対応できることから対応していきたい。情報機器の使い方に関しても、使い方を家族で教えあうことにより、家庭内のコミュニケーションに繋がると思う。そういったことも含めて、教育研究所から様々な情報発信できれば良いと考えている。
酒井委員	教育委員会で方向性を決定しても、予算がなければ実施ができない。市としっかりと協議をして実践に移してほしい。
井上委員	早速にホームページの作成について感謝している。しかし、市のホームページを見ると、新型コロナ関連の最新情報が分かりにくい。また教育研究所のホームページまでたどり着きにくいので、改善を図ってほしい。
垣内委員	教育研究所の情報内容については分かりやすいのだが、ホームページのデザインについて、もう少し改善が必要であると思う。
酒井次長	早急に作成したページであるので、修正が必要であると感じている。意見を参考に修正していきたい。
酒井委員	今回の新型コロナウイルス感染症に関する対応で、どこにしわ寄せがあったのかを考えて対応策を練っていかなければならない。授業が再開となったときに教師に求められるスキルや授業の仕方はこれまでと異なってくると思

尾松課長	<p>うので、休業期間中に対策をとってほしい。</p> <p>丹波篠山市独自の学力状況調査は実施されるのか。</p> <p>学力状況調査は中止し、生活習慣状況調査のみ学校再開後一か月を目途に実施する予定である。</p>
酒井委員	<p>このような状況にこそ、学力状況調査を実施すべきであると考え。検討いただきたい。</p>
前川教育長	<p>教育の大前提は、身に着けた能力を発揮するということである。丹波篠山市教育委員会としても、その教育の大前提を踏まえた対応をしていきたいと考えている。周囲と協力してよりよい社会の作るために、身につけた力を発揮できる場を整える必要があると感じている。</p> <p>それでは、第3回臨時教育委員会をこれで終了する。</p>